

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査対象 (学校数、児童生徒数は特別支援学校を含んだ数)

	対象学校数	児童生徒数
小学校(第5学年)	320校	約16,830人
中学校(第2学年)	179校	約16,400人

※調査実施期間平成30年4月から7月末までの期間

※特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

2 実技に関する調査

【体力合計点】

〈小学校〉

		30年度	全国比較
男子	本県	53.31	-0.90
	全国	54.21	
女子	本県	55.87	-0.03
	全国	55.90	

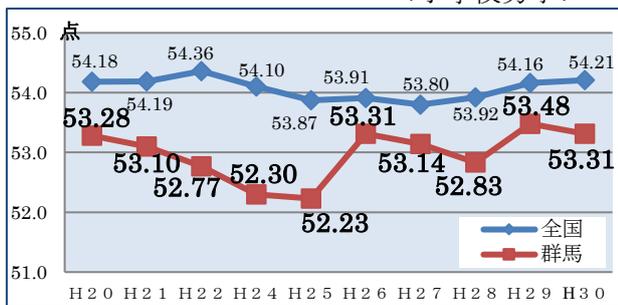
【体力合計点】

〈中学校〉

		30年度	全国比較
男子	本県	42.41	+0.09
	全国	42.32	
女子	本県	51.55	+0.94
	全国	50.61	

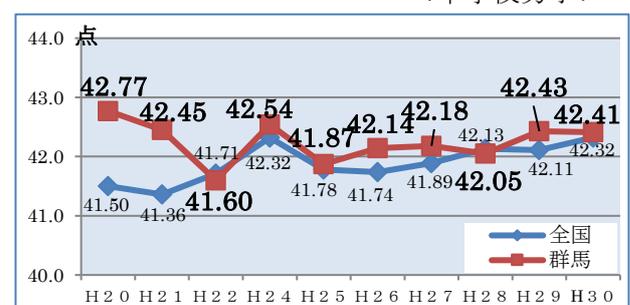
【体力合計点の推移】

〈小学校男子〉



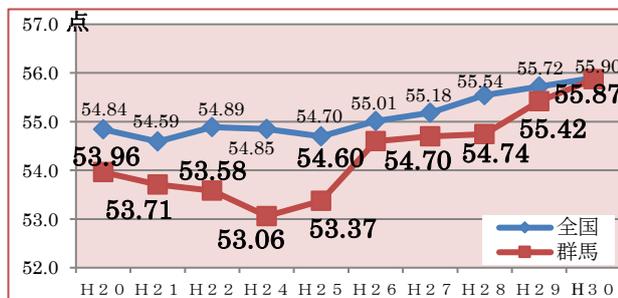
【体力合計点の推移】

〈中学校男子〉



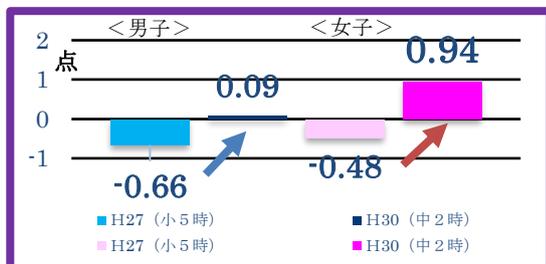
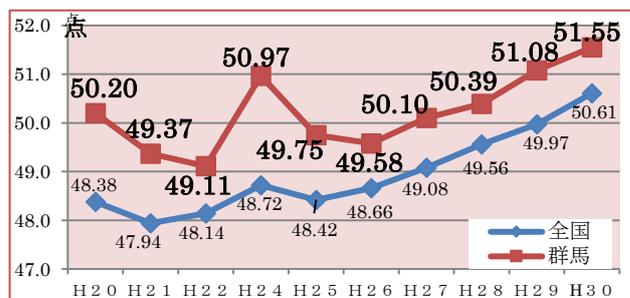
【体力合計点の推移】

〈小学校女子〉



【体力合計点の推移】

〈中学校女子〉



〈傾向〉

- ①小学校においては、昨年度と比較し男子は0.17ポイント下回ったが、女子は0.45ポイント上回り本県として調査開始以来の最高値を示した。なお、全国平均値と比較した場合、男子は全国平均よりわずかに低く、女子は全国平均とほとんど差が見られなかった。
- ②中学校においては、昨年度と比較し男子は0.02ポイント下回ったが、女子は0.47ポイント上回り本県として調査開始以来の最高値を示した。なお、全国平均値と比較した場合、男子は全国平均とほとんど差が見られなく、女子は全国平均よりわずかに高かった。

同学年集団で見た体力合計点の全国平均との差

現中学校2年生について、小学校5年生時の調査結果と比べると、男子は、全国平均よりわずかに低かったが、全国平均とほとんど差が見られなくなっており、女子については、全国平均とほとんど差が見られなかったが、全国平均よりわずかに高くなるなど、男女とも全国との差は、マイナスからプラスに変化した。

【各項目の結果】

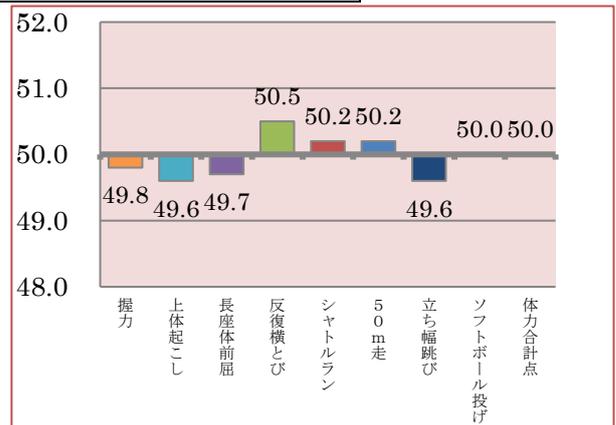
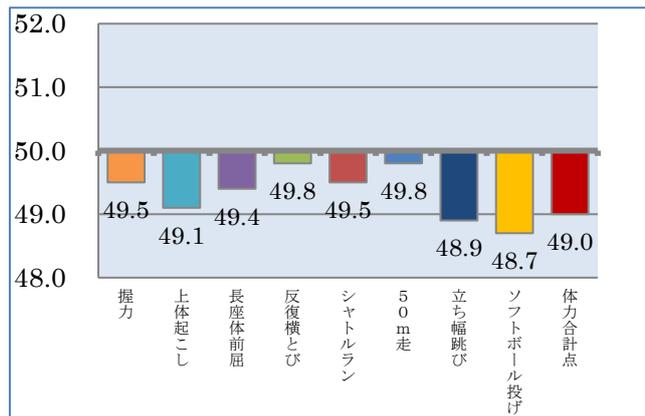
〈小学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	16.35	19.38	32.78	41.91	51.05	9.39	149.85	21.07
	全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15
女子	本県	16.09	18.76	37.33	40.66	42.27	9.59	145.11	13.75
	全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77

〈小学校男子〉

T 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50

〈小学校女子〉



〈中学校〉

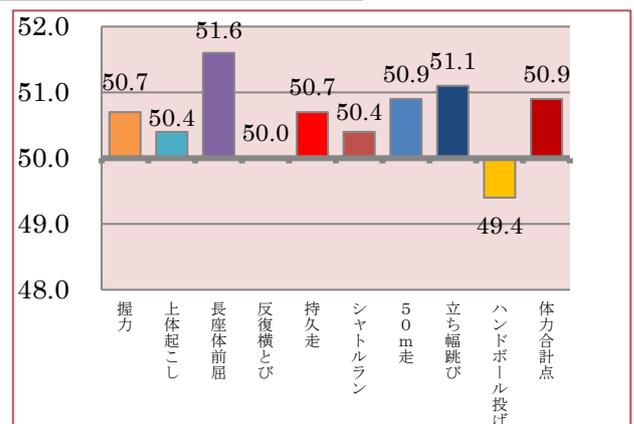
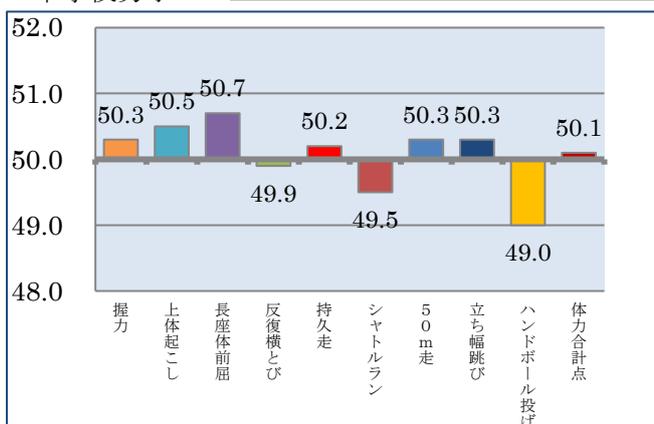
※持久走とシャトルランは、どちらか選択。

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	29.05	27.65	44.14	52.17	391.05	84.78	7.96	196.33	19.98
	全国	28.84	27.36	43.44	52.24	392.65	86.06	7.99	195.62	20.55
女子	本県	24.19	24.13	47.76	47.40	283.76	60.60	8.71	172.86	12.74
	全国	23.87	23.87	46.22	47.37	286.85	59.87	8.78	170.26	12.98

〈中学校男子〉

T 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50

〈中学校女子〉



〈各項目における傾向〉

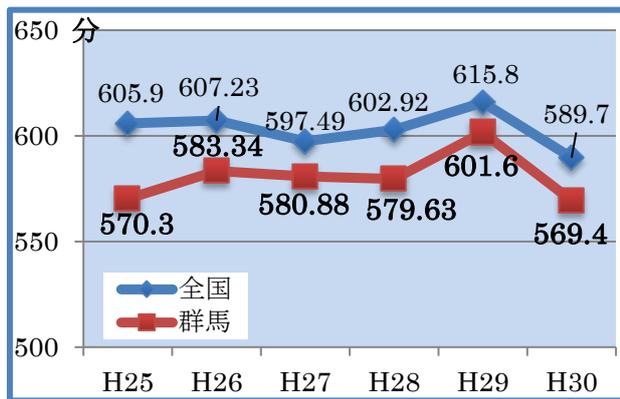
- ①小学校において、男子は全ての項目で全国平均を下回っており、女子は反復横跳び、シャトルラン、50m走以外の項目が全国平均を下回っている。
- ②中学校において、男子は反復横跳び、シャトルラン、ハンドボール投げ以外の項目は全国平均を上回っており、女子はハンドボール投げ以外の項目は全国平均を上回っている。

3. 児童生徒質問紙調査

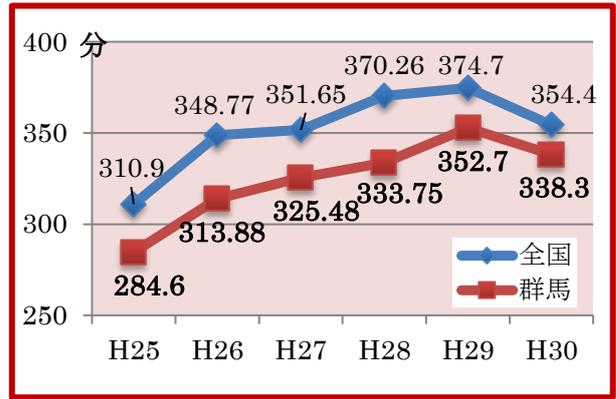
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて（1週間の総運動時間）

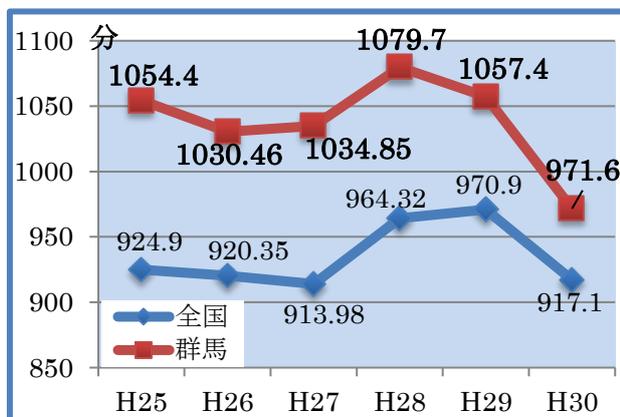
〈小学校男子〉



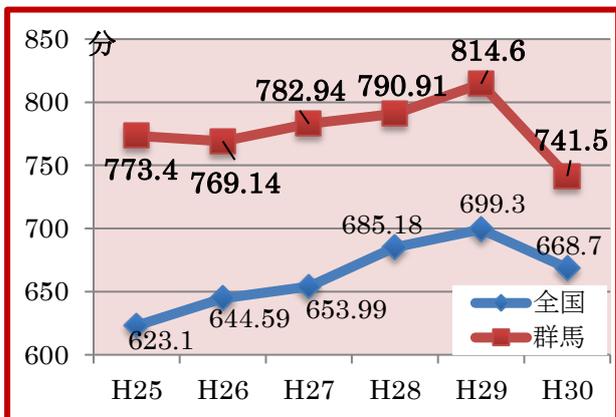
〈小学校女子〉



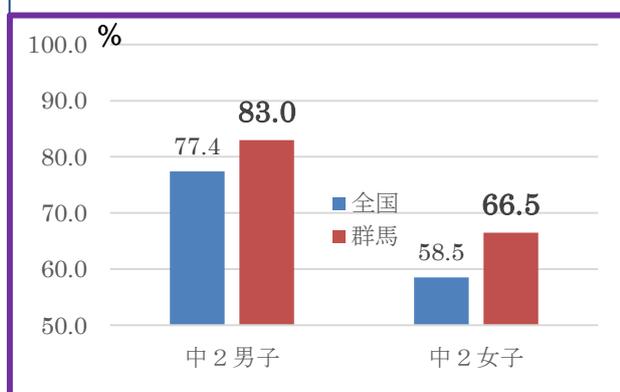
〈中学校男子〉



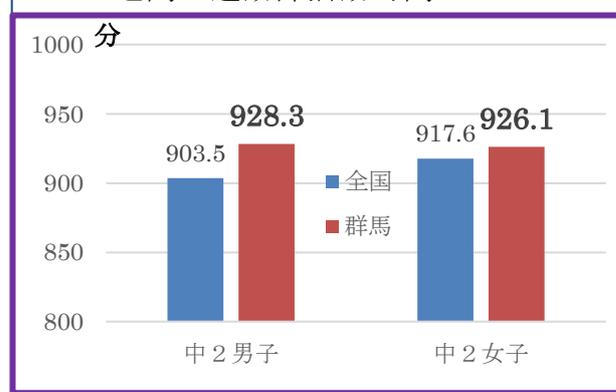
〈中学校女子〉



運動部の入部率について



一週間の運動部活動時間について

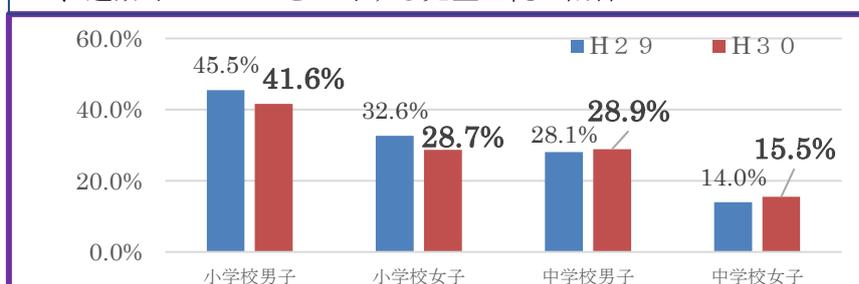


○体育の授業時間以外での運動やスポーツの時間は、全国平均と比べ中学校の男女は長く、小学校の男女はほとんど差が見られなかった。

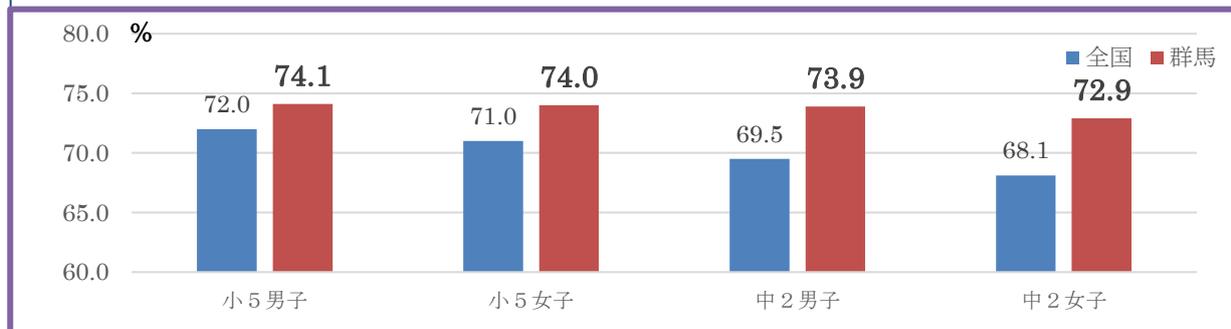
○中学校の運動部の入部率は、全国平均と比べ男女とも高い傾向が継続しており、一週間あたりの運動部活動時間は、男子が全国平均と比べわずかに長く、女子はほとんど差がない傾向が見られた。

○放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動やスポーツをよくする児童生徒の割合は、前年度に比べ、小学校では減少し、中学校では増加している。

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動やスポーツをよくする児童生徒の割合

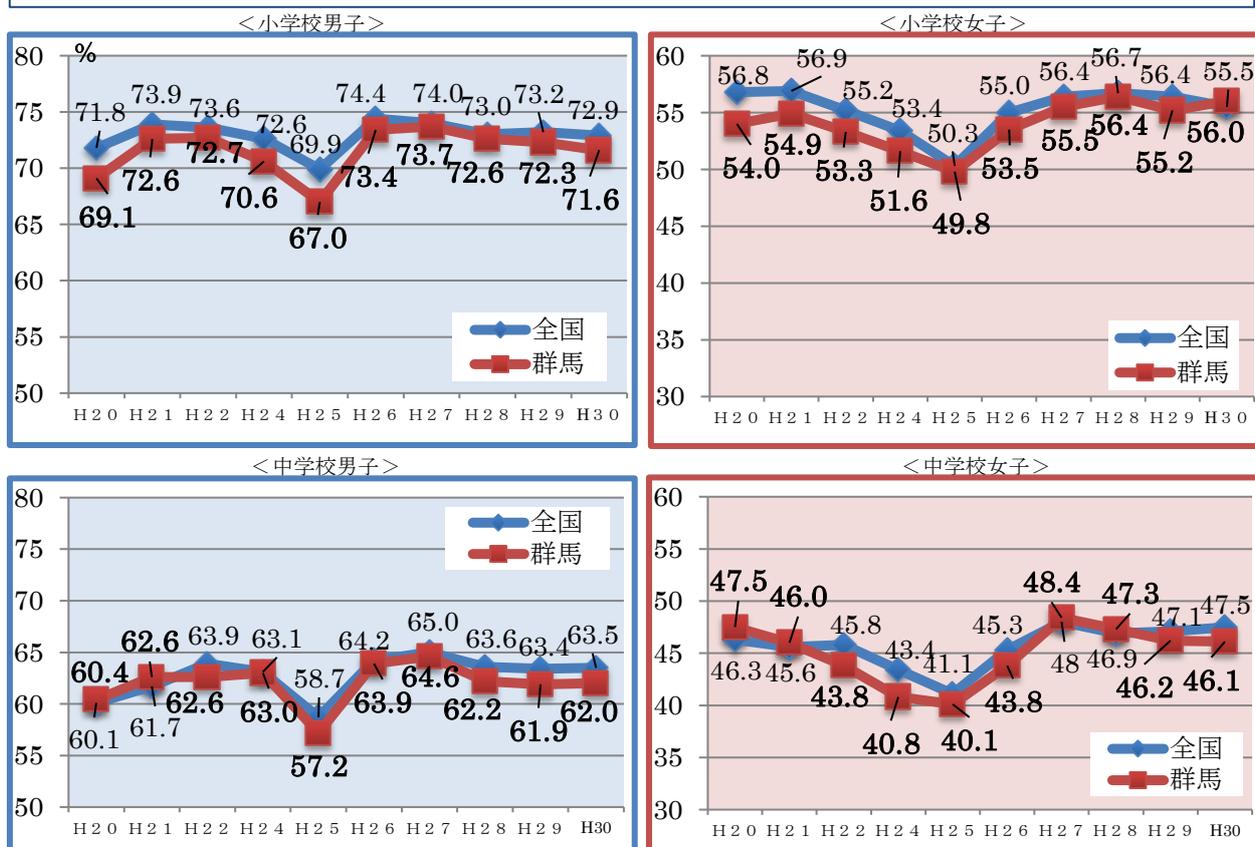


体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒について

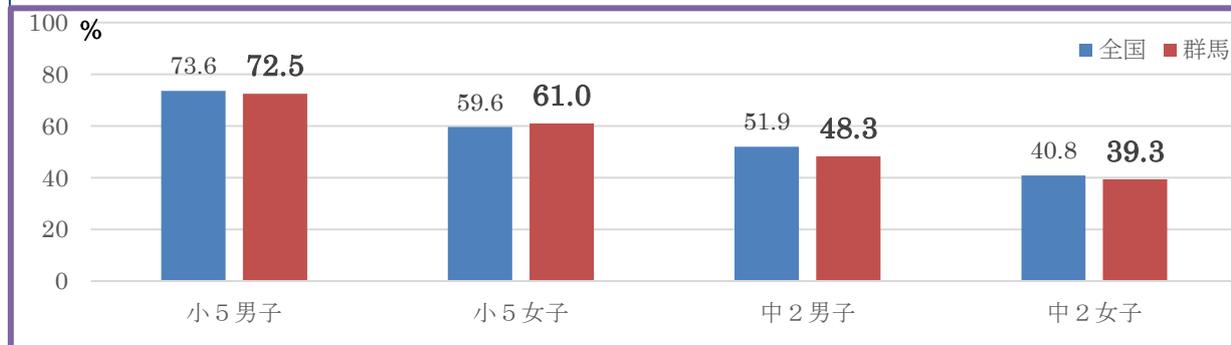


○体力テストの結果や体力向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、全国平均と比べ小学校の男女、中学校の男女とも高かった。

運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きと感じている児童生徒について



体育、保健体育の授業が楽しいと感じている児童生徒について



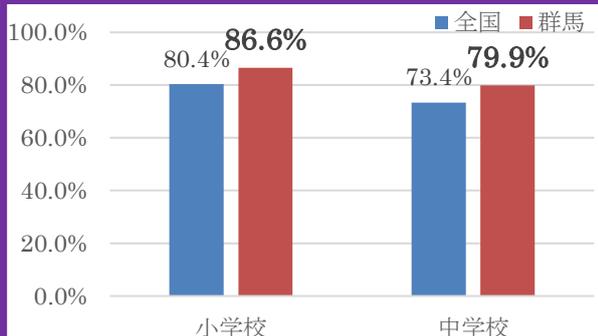
○「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、全国平均と比べ小学校の女子はほとんど差がなく、小学校の男子と中学校の男女はわずかに低かった。

○体育、保健体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合は、全国平均と比べ小学校の女子はわずかに高く、小学校の男子と中学校の女子はわずかに低く、中学校の男子は低かった。

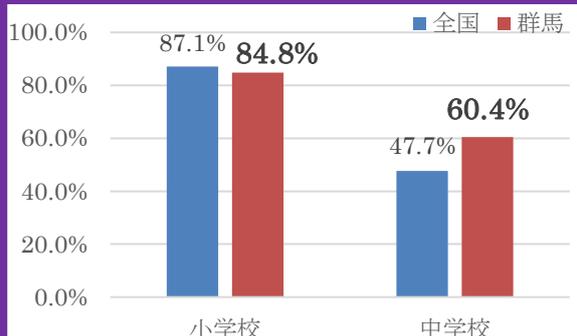
4. 学校質問紙調査

〈全国と比較したときの本県の特徴〉

前年度、学校全体の体力・運動能力向上の目標設定をした



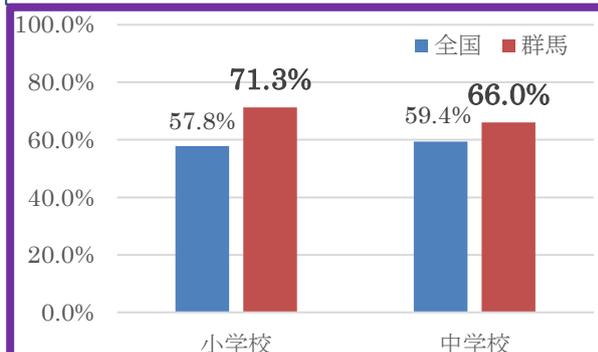
前年度、全児童・生徒に対する体育・保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行った



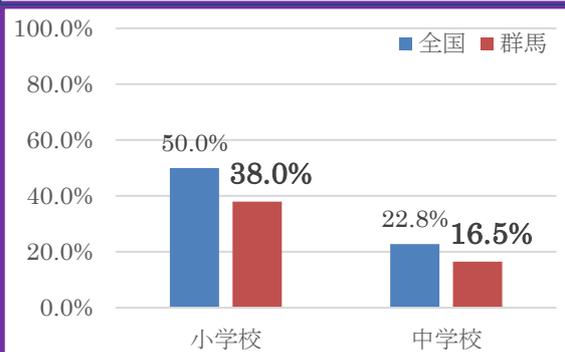
○学校全体で、体力・運動能力向上のための目標を設定している学校の割合は、小学校・中学校とも、全国平均と比べ高い。

○体育、保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組は、全国平均と比べ小学校では低く、中学校では高い。

運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組、性別に応じた取組を行っている割合



体育・保健体育授業で、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れている割合（中学校は、いつも取り入れている割合）

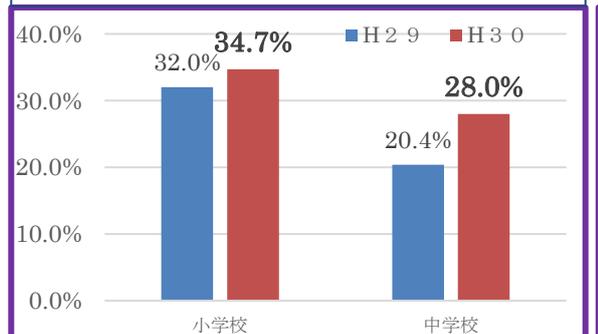


○運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組、性別に応じた取組を行っている学校の割合は、全国平均と比べ小学校・中学校とも高い。

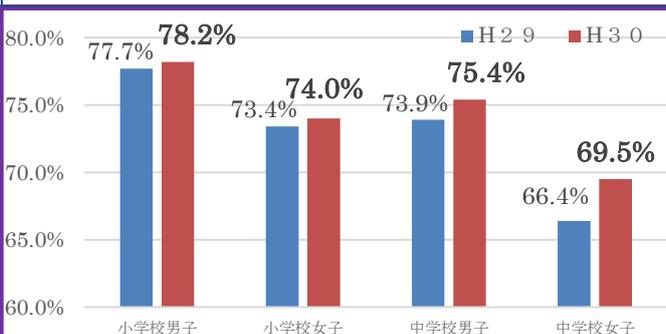
○体育・保健体育授業で、児童生徒同士で話し合う活動を取り入れている学校の割合は、全国平均と比べ小学校・中学校とも低い。

5. 健康な生活習慣に関する視点

体育・保健体育以外で健康三大原則について、様々な場面で計画的に伝えようとしている学校の割合

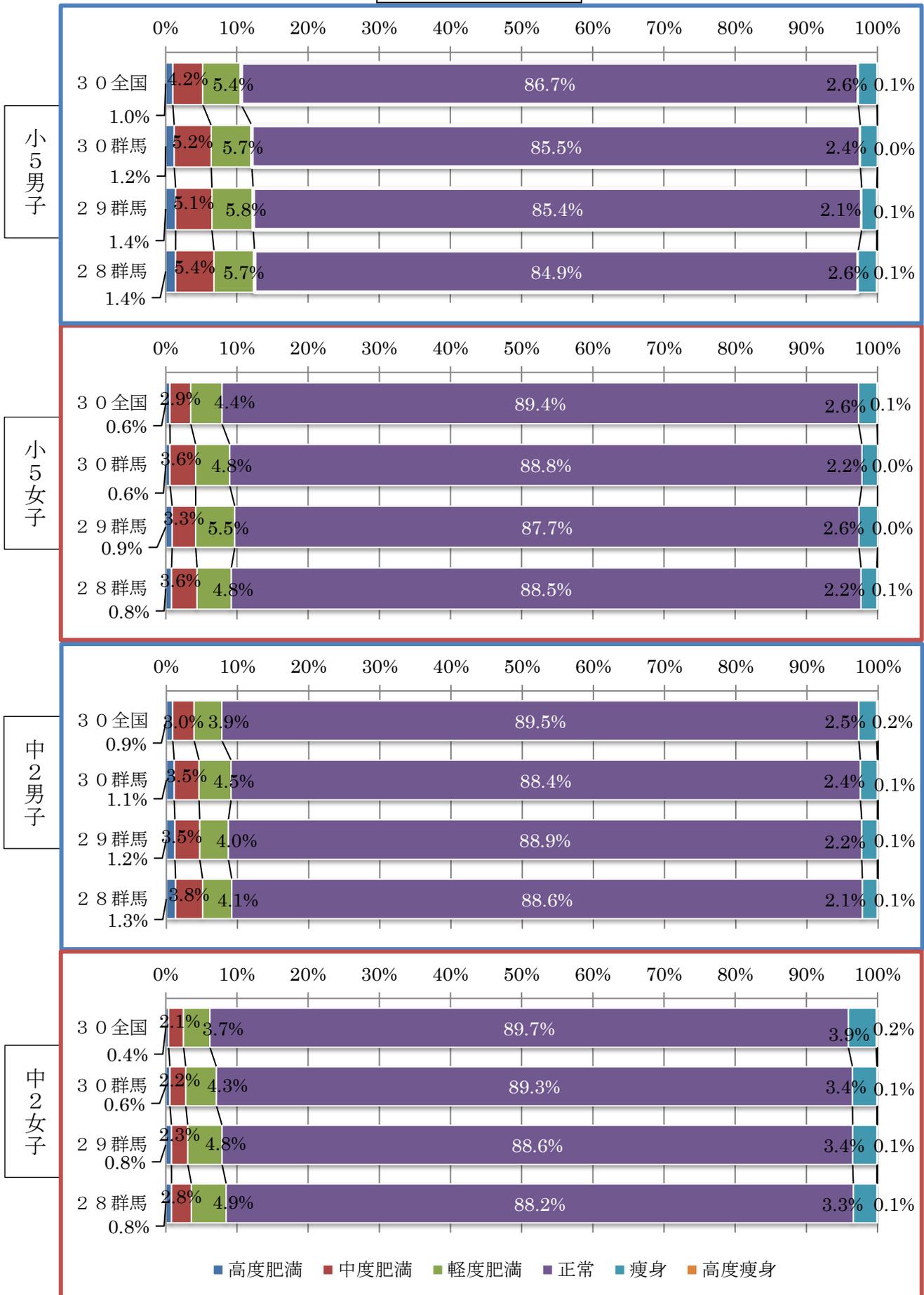


健康であるために運動を行うことが大切だと考えている児童生徒の割合



○昨年度に比べ、体育・保健体育授業以外で健康三大原則について、様々な場面で計画的に伝えようとしている学校の割合や、健康であるために運動を行うことが大切と考えている児童生徒の割合は、小学校・中学校とも増えている。

体格調査の結果から



○肥満傾向の児童生徒の出現率は、全国平均と比較すると小学校の男女と中学校の男子がわずかに高く、中学校の女子は変わらない傾向が見られる。また、中学校男子以外は、前年度に比べ、肥満児童の出現率は下回った。

6. これまでの取組

○体力向上プランの作成・実施

各学校において昨年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果等に基づく自校の「体力向上プラン」を作成し、年間を通して体力向上に係る取組を組織的に推進した。

※体力向上プラン…年度初めに計画書を作成し、年度末に報告書を県に提出する。体育の授業、学校の教育活動全体、地域や家庭との連携、部活動等の視点で各学校の実態に合わせて作成する。

○指導資料の作成及び活用

「子どもの体力向上ガイドブック」を作成し、各学校の実践する「体力向上プラン」の中から優れた取組を取り上げ、体力向上に関する実践例や参考となる運動例（投力を高めるヒント等）を記載し、県内全ての小学校・中学校に配布した。また、各学校では、県教育委員会で作成した「新体力テスト実施に当たって」や「小学校低学年からの新体力テストの実施について」を活用し、実施上の留意点を十分に理解した上で新体力テストを実施した。

○体力向上指導者研修会の実施

県内全ての小学校・中学校の体育主任等が参加し、体力向上の意義や学校全体で組織的に取り組む必要性や授業改善につながる工夫等を研修し、各学校での実践に生かした。

○モデル校における体力向上の取組の実施

学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組を行うとともに、体育専科教員を活用した実践や、投の運動を加えた陸上運動の実践（6月）を行うなど、他の学校のモデルとなる取組を推進した。

○低学年からの体力向上に向けた取組の推進

平成30年度より、新体力テストを全ての公立学校（特別支援学校は状況に応じる）の小学校1年生以上で実施することで、低学年からの体力向上に向けた継続的な取組ができるようにした。（29年度は小3以上、25～28年度は小5以上、24年度以前は抽出）

○投力を高める実践の推進

県小学校体育研究会と連携し、小学校教諭を対象に投力を高めるための内容（プロ野球OB選手等による教員のためのベースボール型授業研究会）を含めた実技研修会（7月）を実施した。

ボールを投げる機会の多いボール運動（ハンドボールを基にした簡易化されたゲーム）の作成及び公開授業（11月）を実施した。



地域や高学年と連携した小学1年生の新体力テストの実施



県小学校体育研究会と連携した元プロ野球選手等による児童の投力の向上につながる実技講習



投力の向上につながる、授業モデルの作成と実践

○学校における生活習慣病対策の推進

平成29年11月に「小・中学校における生活習慣病対策基本方針」を策定し、平成30年度から各学校で基本方針を踏まえた対応を依頼し、健康的な生活習慣を目指した取組について、学校・家庭・地域機関（群馬県医師会等）が一体となった取組の推進を目指している。

7. 主な成果と課題

<主な成果>

- ◎ 運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組等により、小学校、中学校ともに女子の体力合計点の向上が見られるようになった。
- ◎ 県内全ての小学校、中学校で体力向上プランを作成・実施していることで、学校としての体力向上に向けた目標設定や児童生徒の体力向上に向けた目標設定の割合が増加している。 など

<主な課題>

- 運動やスポーツへの愛好的態度の向上に向けた授業改善
- 小学校（特に男子）における運動やスポーツの実施時間の改善
- 投力の向上に向けた取組の改善
- 肥満傾向の児童生徒の出現率の改善 など

8. 今後の取組

(1) 本調査における結果の活用方法を示した資料の配付

県教育委員会として、各学校が自校の課題を把握するとともに、課題解決に向け取組を見直し、解決する手立てを構築できるよう、本調査の活用方法を示した指導資料を作成し、全ての小学校・中学校に配布する。

(2) 体力向上推進モデル校等における取組の支援

体育専科教員を活用した取組を実施する等、教員の指導力向上及び体育授業の充実を通して、学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組を支援するとともに、実践成果を県内の学校へ普及させる。

(3) 体力向上に関する報告書の作成・配布

各学校の実践する「体力向上プラン」の中から優れた取組を取り上げ、体力向上に関する実践例や参考となる運動例等を記載した資料を作成し、県内全ての小学校・中学校に配布する。

(4) 体力向上取組優良校及び体力優良証交付率優良校の表彰

「体力向上プラン」に基づき優れた実践を行った学校を表彰するとともに、体力優良証の交付率が優れている小学校・中学校・高等学校を表彰する。

(5) 各教育事務所、県総合教育センター、各市町村教育委員会、県小学校体育授業研究会、県中学校保健体育研究会等と連携し、児童生徒の体育や運動・スポーツに対する愛好的態度が向上するよう、体育・保健体育の授業改善及び、体育・保健体育授業以外の運動機会の充実を推進していく。

(6) 投力を高める指導資料の作成・配付等

投力の向上に向け実施した小学校教諭を対象とした実技研修会の内容を普及させるとともに、投力を高めるための授業プログラムを作成し、県内全ての小学校・中学校に配付することで、投力の向上に向けた取組を充実させる。

(7) 「学校における生活習慣病予防対策」の推進

平成29年11月に策定された『小中学校における生活習慣病予防対策基本方針』をもとに、家庭や関係機関等と連携し、家庭における運動の啓発や栄養指導等、児童生徒の健康的な生活習慣を目指した取組を推進する。など

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果の活用について

群馬県教育委員会健康体育課

本調査は県内全ての小学校及び特別支援学校小学部第5学年、中学校及び中央中等教育学校、特別支援学校中学部第2学年を対象に実施されました。各学校においては、調査結果をもとに児童生徒一人一人の体力・運動能力、運動習慣等の実態や学校及び学級の傾向を把握し、それに基づいた指導を進めていくための資料として活用することが必要です。

なお、調査結果を教育活動の資料として活用するに当たっては、自校の結果を比較・分析することで課題を明確にし、その解決の手立てを考え、学校全体で体力向上に向けた取組（体力向上プラン）を立案・実践するようにしましょう。

◎調査結果の受取から指導の手立ての実践までの流れ

結果の受取

※スポーツ庁指定の業者より学校に直接搬入されます。

- 1 送付された内容物の確認（CD、報告書、記録シート等）
- 2 児童生徒への配布物の確認（個人の結果、記録シート等）

・同封のCDを活用することで、自校の結果を分析することができます。
・調査結果は学校ごとに異なります。各学校の調査結果を分析し、体力の向上に向けての取組の改善に生かしましょう。

実態・傾向の把握

- 1 学校及び学級の平均値と県及び全国平均値との比較・分析
- 2 児童生徒一人一人の調査結果と県及び全国平均値との比較・分析
- 3 個人プロフィールに基づく児童一人一人の体力の分析

・同封の「記録シート」を活用し、児童生徒に自分の体力・運動能力や運動習慣等を把握させ、結果を生かすようにさせましょう。
・同封の「学校用確認シート」を活用し、自校の体力の状況を確認し、取組に生かしましょう。

課題の明確化及び体力向上プランの検証・修正

- 1 学校、学年、学級及び児童生徒一人一人の体力・運動能力の課題の明確化
- 2 学校における体力向上プランに基づく取組の検証・修正
 - ① 課題をもとに、今年度の体力向上プランに基づく取組の検証・修正
 - ② 全教職員の共通理解のもとに、次年度の体力向上プランの構想の立案

学校全体だけでなく、学年ごとの課題も明確にし、体力向上プランの検証や修正に活用しましょう。

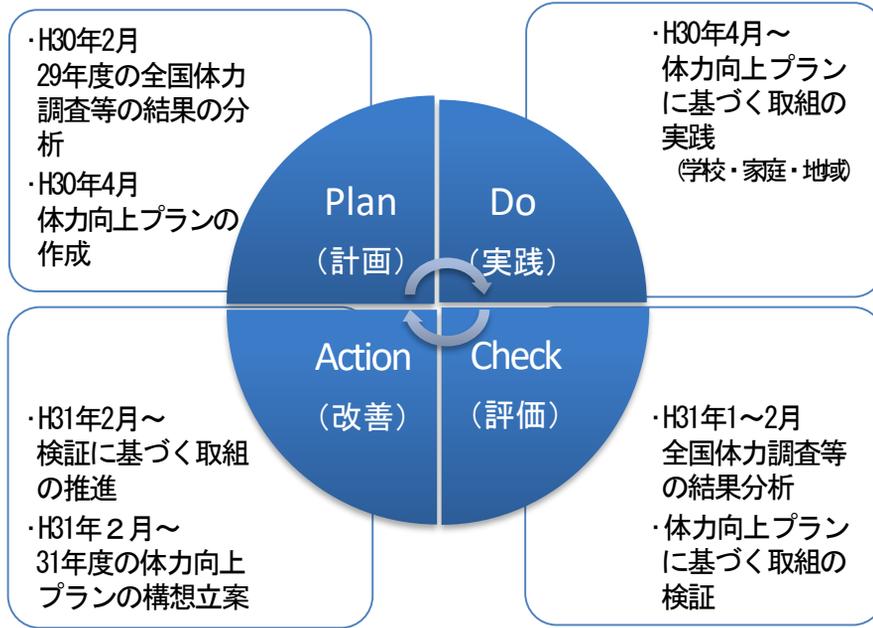
指導の手立て

- 1 「体育」「保健体育」における指導の充実
 - ① 実態や課題に対応した運動内容の配列などの年間指導計画の工夫
 - ア 小学校6年間、中学校3年間（9年間）を見通した指導計画を作成する。
 - ② 児童生徒一人一人の明確な運動課題に基づく学習活動の工夫
 - ア 「記録シート」や学校独自で作成した「個人記録表」等を活用し、児童生徒一人一人に結果を把握・分析させることで、自己の体力の把握と課題を明確にする。
 - イ 運動の楽しさや喜びを味わわせるような活動や運動の場を取り入れ、進んで運動に取り組めるような学習活動を行う。
- 2 体育・健康に関する指導の充実
 - ① 学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等における魅力ある体育・健康に関する活動計画の作成
 - ② 遊具や固定施設等の施設・設備の整備と活用法の工夫
 - ③ 運動部活動の充実と地域のスポーツクラブ等との連携
- 3 家庭・地域との連携の推進
 - ① 学校だよりや学級通信等により、家庭や地域への調査結果の公表
 - ② 家庭・地域との連携による日常生活（生活習慣）における健康・体力づくりの推進

◎学校用確認シートを活用し、自校の体力、体力向上への取組を必ず確認してください。

■調査結果を踏まえ、自校の取組を検討しましょう。

(昨年度－今年度－来年度に向けての流れの例)



◎報告書巻末の取組チェックシートで、自校の取組を確認しましょう。体力上位校が実施している取組の実施状況をチェックし、結果の分析に役立てましょう。

◎子どもの体力向上ガイドブックを活用しましょう。ガイドブックに紹介されている体力向上推進モデル校の取組や、体力向上取組優良校の体力向上プランと、自校の取組を比較し、自校の体力向上プランの作成に生かしましょう。

■報告書、結果資料CD、事例校の実践等を活用しましょう。

調査結果が届いたら、自校の結果資料CDを活用するとともに、同封の報告書を熟読の上、報告書に掲載されている事例校の取組を参考に自校の取組を検証・改善しましょう。また、学校のホームページや学校だより等により自校の結果を公開することを検討しましょう。

結果の公表については、単に体力合計点などの数値のみではなく、取組の成果や課題が、児童生徒や家庭、地域に具体的に伝わるように工夫しましょう。

◎ 本調査は、実施要領により、各教育委員会、学校等で調査結果を活用した取組に努めることが定められています。それぞれにおいて、結果を分析し、施策や指導に生かしていきましょう。
「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領」より抜粋 ※詳しくは、実施要領を確認してください。

6. 調査結果の取扱い

(4) 調査結果の活用

各教育委員会、学校等及びスポーツ庁においては、調査の目的を達成するため、以下のような調査結果を活用した取組に努めることとする。

- ① 各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の改善に取り組むこと。
- ② 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な運動習慣の改善等に努めるとともに、自らの体育的活動における指導等の改善に向けて取り組むこと。
- ③ 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の改善に向けた取組を進めること。

(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

- ① ウ 学校においては、自校の結果について、それぞれの判断において、エに基づき公表することは可能であること。
エ 調査結果の公表に当たっては、以下の(ア)から(カ)までにより行うこと。
(ア) 公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。
(イ) 調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に体力合計点などの数値のみの公表は行わないこと。
(ウ) アの(ア)又はイの(イ)に基づき教育委員会が個々の学校名を明らかにした公表を行う場合、又はアの(イ)において市町村教育委員会が学校名を明らかにした公表に同意する場合は、当該学校と公表する内容や方法等について事前に十分相談すること。

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

〇〇〇〇立〇〇〇〇学校

全国全ての小学校第5学年（中学校第2学年）を対象に行われた全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本校の結果をお知らせします。

体力合計点の平均比較



この資料は、今年度の全国と群馬県の結果をもとに作成しています。（※本校の平均は参考）掲載している項目等を参考に、自校の結果（児童生徒の体力・運動習慣・生活習慣・学校の取組等）を加えるなど、使いやすいよう工夫して活用してください。

■全国平均と比較すると…県平均と比較すると…
(結果、原因、改善策…)

自校の結果を公開するに当たり、「結果」のみを提示するのではなく、その「原因」や「改善策」なども合わせてコメント等により示すようにしましょう。

各項目の前年度結果との差（H30平均値－H29平均値）

性別	年度	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
		(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(cm)	(m)
男子	30年度	16.35	19.38	32.78	41.91	51.05	9.39	149.85	21.07
	29年度	16.38	19.52	33.07	41.56	50.44	9.39	150.37	21.44
	差(30-29年度)	-0.03	-0.14	-0.29	+0.35	+0.61	0	-0.52	-0.37
女子	30年度	16.09	18.76	37.33	40.66	42.27	9.59	145.11	13.75
	29年度	16.09	18.63	37.58	39.76	40.77	9.61	145.52	13.61
	差(30-29年度)	0	+0.13	-0.25	+0.90	+1.50	※+0.02	-0.41	+0.14

■平成29年度と比較して…（結果、原因、改善策…）

児童生徒質問紙調査の結果から

体育・保健体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合について



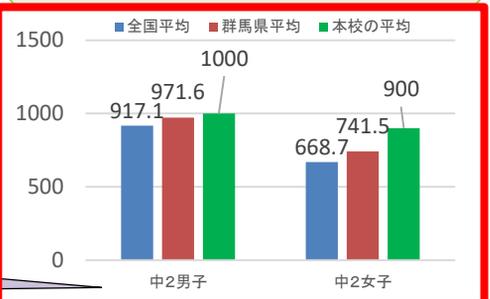
健康であるために運動を行うことが大切だと考えている児童生徒の割合について



体育・保健体育の授業時間以外での運動やスポーツについて（1週間の総運動時間）

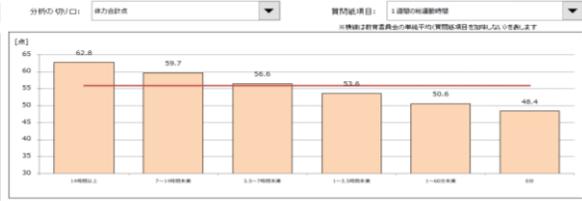
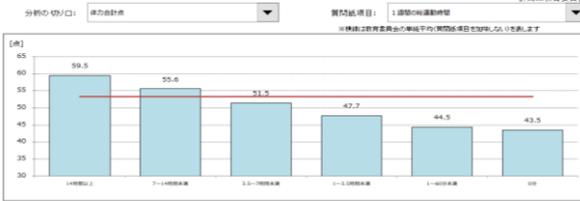


■全国と比較して、男子は…女子は…（結果、原因、改善策…）



中学校では、部活動の運動時間についても分析してみましょう。

体力合計点と生活習慣の関係



運動

■一週間に〇〇分以上運動している児童・生徒と〇〇分未満しか運動していない児童・生徒では、体力合計点に差が…（結果、原因、改善策…）



食事

■朝食を毎日食べている児童・生徒とそれ以外の児童・生徒では、体力合計点に差が…（結果、原因、改善策…）



睡眠

■〇〇時間未満しか睡眠をとっていない児童生徒は、体力合計点に…（結果、原因、改善策…）

クロス集計も積極的に分析に活用しましょう

体格調査の結果から（全国と比較したときの本県の特徴）※中学校2年の例

		高度肥満	中度肥満	軽度肥満	正常	痩身	高度痩身
男子	30全国	0.9%	3.0%	3.9%	89.5%	2.5%	0.2%
	30群馬	1.1%	3.5%	4.5%	88.4%	2.4%	0.1%
女子	30全国	0.4%	2.1%	3.7%	89.7%	3.9%	0.2%
	30群馬	0.6%	2.2%	4.3%	89.3%	3.4%	0.1%

■「正常」の児童生徒の割合は…（結果、原因、改善策…）

生活習慣との関連も含め分析しましょう。

【小学校】

- 「記録シート」を参考に、ご家庭でお子さんといろいろな運動や新体力テストを行ってみてください。
- お子さんとともにお子さんの生活習慣を見つめ直して、目標を立ててみてください。

【中学校】

- 「記録シート」を御覧になり、お子さんと新体力テストのことについて話題にしてみてください。
- お子さんとともにお子さんの生活習慣を見つめ直して、目標を立ててみてください。